

ご来場の皆さま

エリトリアの 18 回目の独立記念日にお集まりいただきありがとうございます。

本日は、外交官の方々をはじめ、政治家、副市長をはじめとした横浜市の皆さま、ビジネスマン、政府職員、教育関係者、メディア、旅行者、アーティストまた横浜市の皆さまなど、たくさんの方にお集まりいただき、この歴史的な行事を一緒にお祝いできることを大変光栄に存じます。

また、世界的な不況や新型インフルエンザの広まりなどのこの困難な時期に、エリトリア政府に代わりまして、天皇・皇后両陛下と皇族の皆様方のご多幸とご健康、また日本政府と国民の皆様方の平和と繁栄をお祈りできますことも大変光栄に存じます。

ここで、日本とエリトリアの新しく成長段階にある友好関係に対して、エリトリア政府の深い喜びと感謝をお伝えします。また、エリトリアの国家建設事業に対する日本の援助と努力には心から感謝しております。エリトリアは、長きにわたる独立戦争と野蛮な破壊行為による灰の中から生まれた新しい国です。エリトリアは、日本の第 2 次世界大戦後の奇跡的な経済発展と成功物語から多くを学ぶことができます。ですから、第 4 回 TICAD 直後の 2008 年末から 2009 年初頭にかけて、日本からエリトリアに派遣された高等教育協力派遣団が、エリトリア高等教育委員会と協力し、目標やニーズ、必要条件、今後 4 年間にわたる継続的な協力のためのロードマップを無事策定したことをお知らせできますことを非常にうれしく思います。日本はエリトリアと多くを分かち合うことができます。エリトリアの 7 校の大学は、今まさに日本の成功物語から学ぶ用意が整い、そのドアを開いています。

本日はこの機会に、皆さまとよいニュースを分かち合いたいと思います。1970 年代のデバルワにおける日本鉱業株式会社(現日鉱金属株式会社)のプロジェクト以来初となる、ビシャでの産業規模の鉱業プロジェクトは、世界的な信用収縮にもかかわらず、問題なく進んでおります。ビシャの金採掘プロジェクトは、複数の金属を含む大規模なプロジェクトであり、2010 年半ばの操業を目標としています。現在 10 社以上の多国籍企業が、エリトリアにおける資源産業に関わっています。

エリトリアは、日本に対して、自由貿易地域、観光、漁業、農業、貴重な鉱物、希土類金属、炭化水素その他の産業において友好的な貿易と投資のパートナーシップを築くために、戦略的な場所に位置する紅海沿岸の環境に配慮した自然のままの排他的経済区域を提供しております。

ご来場の皆さま

1991 年の今日、エリトリア人民解放戦線は、エチオピア軍とその同盟国である旧ソ連、ワルシャワ条約機構加盟国、キューバ、イエメンおよび北朝鮮のエリトリアとエチオピアにおける海軍、空軍、陸軍の司令部を制圧して圧勝し、首都アスマラに凱旋しました。

2年後の1993年には、国連監視下の住民投票で、国民の99.7%がエリトリアの主権と独立に賛成票を投じました。

この住民投票の結果は、安全と尊厳が確保されたことと、将来の国または地域の安全、安定、共存および協力への道は、銃弾(bullet)ではなく投票(ballot)であるということのエリトリア国民からのメッセージとして友人や敵に対して伝えることとなりました。

5年間の平和の後、1998年に避けられたはずの争いがバドメ村を巡る国境問題を口実に再燃し、エチオピアが戦争を宣言しました。この悲劇的な紛争は、国連、EU、アフリカ統一機構、米国と国際社会の後援のもと、両国政府がアルジェリアで和平合意に調印したことで解決しました。この紛争後、両国の国境は、エチオピア・エリトリア国境委員会が定め、宣言しました。エリトリアは現在、米国や国際社会が、エチオピアに対して、法律に従ったエリトリア領からの軍隊撤退を求めることを待ち望んでいます。

最後に、この記念日に際し、シネマアフリカのご厚意により、現在エリトリアで鉄道の再生という大変な作業に取り組んでいる老人たちの話に基づくNHKのドキュメンタリー作品の上映と、エリトリアの宗教、文化、考古学、建築、生物の多様性などの豊かな伝統を紹介する写真展を開催していただきました。エリトリアと日本の文化的な対話の窓を開いてくださった横浜市、NHK、シネマアフリカに深く感謝いたします。

ご静聴ありがとうございました。

駐日エリトリア国大使 エスティファノス・アフエウォルキ